

## 【68】 過疎県の増加と大都市の発展

この5月1日現在の最新のデータで、山形県の人口が100万人を切ったと公表されました。

昨年4月の富山県に引き続き、2年連続の事で、これで人口100万人未満の県は山形県を入れて次のように12県となりました（データは2024年10月現在）。

山形	101.1万人
富山	99.7
香川	92
秋田	90
和歌山	88
山梨	79
佐賀	79
福井	74
徳島	69
高知	66
島根	64
鳥取	53

都道府県が47もあるのですから、日本全体の人口が減少していく過程で、人口の少ない県の人口が100万人を下回るようになるのは当然といえば身も蓋も無いのですが、東京圏（50km内、3400万人）大阪圏（1700万人）、名古屋圏（900万人）の3大都市圏だけでも計6千万人、日本全体の半分を集めているから、その他の県の人口が少なくなります。

その一方で、人口100万人以上の大都市が、東京23区も一つの都市と数えて次のとおり奇しくも12市あり、さらにもう1市（千葉市、5月現在98.7万人）増えそうです。（データは2025年5月現在）

人口の少ない県は、東北、北陸、山陰、四国、九州に偏在しており、大都市は札幌と仙台を別にするとう東京圏から名古屋、大阪を経て福岡まで東海道・山陽道の上にあります。

(東京区部)	993万人
横浜	377
大阪	281
名古屋	234
札幌	197
福岡	167
川崎	156
神戸	149
京都	143

さいたま 135

広島 118

仙台 109

この2つの表を眺めて、気になる問題点と課題は沢山ありますが、現代の視点でいうと好ましいとは云えない結果に到ったのは単に自然の成り行きではありません。

太平洋ベルト地帯に工業を重点的に発展させ、そのために新幹線や高速道路等のインフラ整備を優先するという高度成長期における政策の結果ともいえるものです。

今後の我々に課せられた課題は、国土利用上のこのアンバランスというか歪を如何に解消していくかということですが、東京圏の一極集中の改善一つをとっても超難事業です。

戦後80年の結果でもあるので、その改善、解決も80年や100年にかかると思った方が良くかも知れません。